

「第 15 回河川整備計画策定専門家委員会」議事概要

日時 令和 4 年 3 月 29 日（火） 10 時 00 分～12 時 30 分

場所 東京都庁第一本庁舎北塔 42 階特別会議室 C

出席委員（名簿順）	朝日	ちさと	東京都立大学都市環境学部教授
	小野	淳	東京都島しょ農林水産総合センター 振興企画室長
	小堀	洋美	東京都市大学環境学部特別教授
	谷川	章雄	早稲田大学人間科学学術院教授
	知花	武佳	東京大学大学院工学系研究科准教授
	土屋	十圀	前橋工科大学工学部名誉教授
	平林	由希子	芝浦工業大学工学部教授
	山田	正	中央大学研究開発機構教授

議事

- (1) 都における河川整備計画の策定状況について
- (2) 現場視察報告
- (3) 柳瀬川流域河川整備計画（変更原案）について
- (4) 隅田川流域河川整備計画（変更原案）について
- (5) 中川・綾瀬川圏域河川整備計画（変更原案）について
- (6) 新河岸川及び白子川河川整備計画（変更原案）について
- (7) 八ツ瀬川河川整備計画（原案）について
- (8) 今後の予定について

(1) 「都における河川整備計画の策定状況」及び (2) 「現場視察報告」について  
→事務局より説明を行った。

(3) 柳瀬川流域河川整備計画（変更原案）、(4) 隅田川流域河川整備計画（変更原案）、  
(5) 中川・綾瀬川圏域河川整備計画（変更原案）、(6) 新河岸川及び白子川河川整備計 画  
（変更原案）、(7) 八ツ瀬川河川整備計画（原案）について  
→事務局より説明を行った。以下は委員からの主な意見。

【柳瀬川流域】

- ・治水経済調査マニュアルに基づき B/C を算出されているが、マニュアルに含まれない人命や労働生産性や BCP、治水以外の環境面やレクリエーション、利用面などについても積み上げて、都民への説明時にはそういった数字や効果を示すことができると事業の重要

性が伝わるのではないか。

- 水難事故をはじめ洪水時の下水道からの処理放流量等に関する協議を今後行っていくことが重要である。
- 流水の正常な機能の維持について、必要な流量の設定に努めると記載があるが、設定するとなった場合は流量観測が必要で、さらに正常流量を設定してしまうと、流量が不足する場合はそれを補給するための対策が必要となる。流域対策や処理水を流すなどの対策もあると思うが対策が打てない河川の方が多いのではないか。空堀川など元々水がない川については、水量が少ないのが本来の姿であるという考え方も大事ではないか。
- 河川整備計画変更原案本文の P10 の洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項に魚道の写真が掲載されているが、洪水に特化した写真に変えてもいいのではないか。
- 柳瀬川流域のような中小河川は計画対象降雨をどう設定するかが難しい。東京は洪水到達時間が 1 時間以内のような川がほとんどだと思うので、1 時間以内にどれだけ雨が降るか、水文、降雨流出現象として本質的な単位は何なのか、東京都なりの位置づけを研究してほしい。
- 現場視察を行った久米川遊水池を例えばため池やビオトープに使うようなことができな  
いか。湿地が減少してきているため、生き物のリザーバーとしての機能を同時に担保する  
のは有意義な使い方になるのではないか。

#### 【隅田川流域、中川・綾瀬川圏域、新河岸川及び白子川共通】

- 地質の記載について、昔の呼び方の記載となっている。例えば沖積世は現在だと完新世、  
洪積世は現在だと更新世であるため、それらを修正した方が良いのではないか。
- スーパー堤防を整備したことによる効果を都自身で研究されることをお勧めする。過去に  
国の高規格堤防が整備され上部にマンションが出来た地区と、木造密集地域の気温や電  
気使用量を比較したところ、高規格堤防が整備された地区の方が電気使用量も少なく、気  
温も風の通りが良く遥かに涼しくなっていた。例えばエネルギーがひっ迫している時代  
に低エネルギー型の住まい方になっていると堂々と言っていいのではないか。
- 河川整備計画には単に防災的なものだけではなく、都民やサイクリストのための施設とい  
う位置づけもあっても良いのではないか。治水、利水、環境のほかにレジャーもあり得る  
のではないか。
- 東京では川に近づけない護岸が多い、東京でカヌーをやろうと思ったら川に下ろすところ  
がない。海外では隅田川のような川でもカヌーやカヤックをやっている。そろそろ発想を  
変える時代に来ているのではないか。

#### 【隅田川流域】

- 隅田川のテラス整備のところで、隅田公園の墨堤の桜は墨田区が名勝の文化財として登録  
している範囲となる。名勝指定されているため、景観との調和や連続性に配慮していただ

きたい。

**【中川・綾瀬川圏域】**

- ・整備計画本文中に流域面積が 987km<sup>2</sup> と記載があるが、流域面積であればこのエリアに降った雨が流域内の河川に出てくると思うが、そうっていないのではないか。流域面積という表現が正しいのか確認していただきたい。

**【八ツ瀬川】**

- ・小笠原は世界遺産でもあるため、護岸は生物、景観に配慮し、例えば石積み風にして隙間に生物が入り込めるような護岸にするのがよい。

**【共通事項】**

- ・全ての公共事業に B/C が 1 以上であらねばならないという理論はないのでは。1 以下だから公共事業でやらざるを得ないと言うのもある。
- ・河川水質は昔と比べ改善されてきて、水生生物が棲める環境になっていると思うが、水生生物から見た河川の健全度を客観的に示せるような定量的評価は現在行われていない。生き物の視点からの良い川の評価をデータに基づいてできるとよい。
- ・地域や関係機関との連携に関する事項の中に総合的な学習という項目があり、学校教育や生涯学習との連携の中で河川と人との繋がりなど連携事業としてやっていくことになっていると思うが、具体的に実現されることをお願いしたい。

(8) 今後の予定について

→事務局より説明を行った。

(以上)